

高雄日本人学校の風

校長 高口和治

3月12日(月)

震災復興の台湾への感謝のレセプションが夜、漢来ホテルで開催されました。高雄市長や台南市副市長、屏東県の副県知事さんなどご来賓がたくさんきていました。また、日本と関係する台湾の方が大勢来ていました。

交流協会からは、日本人学校の子どもによる歌と太鼓の披露を依頼されました。野中所長は、日本人会忘年会の際、太鼓の様子を見ていて、「あの祈りともう一曲くらい、震災復興のレセプションがあるので、やって欲しい。」という意味のことをおっしゃっていました。断る理由もないので、了承の返事をしました。そして、日本の歌と台湾の歌を披露することで台湾人への感謝が伝わるだろうということで、12日に至りました。時々紹介したように、オペラ歌手の黄さんをお願いして、歌の練習を3回してもらいました。また、太鼓も昼休みだけでなく、土曜日にも2回練習をしました。

結果、「ふるさと」「望春風」を披露しました。会場は、ひとこともなく、(台湾のこのような会では、わさわさ人の声が聞こえます)聞き入っていました。特に、台湾語の歌は、会場の方々も口ずさんでいました。

太鼓も「祈り」「勇み駒」を披露してくれました。会場に響き渡る太鼓。

演奏が終わり、私が校長だと知っている人は、声をかけてくれました。「いい歌声だったね」「よく台湾語の歌を子どもたちは、覚えてきれいに歌っていたね」「本当に日本人が歌っていたのですか？」音の響きも台湾語の歌詞も両方ともすごかったということですね。私は響きはわかりますが、台湾語が果たしていいのかどうか？でも、そのような言葉で認められたということは、すごかったということですね。

太鼓も、「この前、会をやったのに、日本人学校の子どもにたのめばよかった」などと、台湾人に言われました。(これは、なんでもかんでも受けるわけにはいかないなので、返事はしないでおきました)

3月13日(火)

14日で学校が終わります。区切りと、転校する子どもたちがいるので、いくつかの学級でお別れ会をやっていました。私は、あまり学校にいなかったもので、5年生の児童を少し話しをする機会しかありませんでした。「校長先生、いっぱいないちゃった」(転校する児童の感想。)

9時20分から玉成幼稚園の卒園式に行ってきました。来賓挨拶というのをしてきたのですが、幼稚園児相手に話したことがなく、大変緊張してしまいました。とにかく、お兄さん、おねえさんが待っているということは伝えてきました。

午後は、学校運営委員会や日本人会の役員会がありました。交流協会の所長さんからは、その会でも「日本人学校の子どもたちありがとう」という話をしてくださいました。皆さんへの感謝でした。伝えます。(現場でも、参加のみなさんへは、感謝の言葉がありました。)

交流協会からメールがきて、自由時報の電子版に「日本人学校の子どもたちの歌声及び太鼓が来場者に感動を与えた」と歌っている様子の写真と一緒にでていと知らせてくれました。

3月14日(水)

修了式を行いました。東日本大震災で亡くなった方に黙祷をしました。

また、離任式も行いました。安城先生、中田先生が3年勤務して、それぞれ、長崎、富山に帰ります。土曜日に台湾を発ちます。ほんの少ししか残っていません。長井先生も台北に戻ります。

今年度、最終号になりました。学校の様子、学校の責任者として何を考え、何を大事にしているかを少しでもお伝えしようと思いました。出張を除き毎週出させていただきます。ありがとうございました。

お 知 ら せ

4月14日(土)に、石川県出身の森喜朗元首相が、烏山頭ダムに、東日本大震災の感謝の意を伝えにやってくるそうです。絆の桜としての植樹だそうです。交流協会からお声がかかりましたので、また、詳しくは高雄プレスに掲載するとのことです。

今、分かっているのは、10:00~11:30に植樹祭が行われるということです。4年生で、現地に訪れますが、どうせならこの機会に現地を訪れたいという方は、交通費等は、受益者負担ですが、参加者を募ります。台湾人と日本人でお互いをよく知ろうという会でバスを仕立てていくつもりでいます。正式に募集するのは、4月10日とし、11日を締め切りにします。おそらく、8時出発、17時帰宅という感じで、烏山頭ダムそのものの見学も入れることになると思っています。

ただ、政治がらみで、急遽とみやめもあるかもしれません。